

1	審議会名	第1回上田市スポーツ推進審議会
2	日 時	平成27年11月10日 午後7時から午後9時まで
3	会 場	上田駅前ビルパレオ5階第1会議室
4	出席者	小林会長、犬飼副会長、関委員、高橋委員、野口委員、廣川委員、松本委員 宮本委員、渡辺委員
5	市側出席者	教育次長、スポーツ推進課長、真田地域教育事務所長、武石地域教育事務所長 スポーツ施設係長、スポーツ推進係長、スポーツ推進係
6	公開・非公開等の別	公開・一部公開・非公開
7	傍聴者	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	28年1月26日
協 議 事 項 等		
1	開会（スポーツ推進課長）	
2	教育次長あいさつ	
3	会長あいさつ	
4	議事	
	(1)平成27年度上田市スポーツ推進事業の進捗状況	
	(2)上田市のスポーツ施設について	
会長	平成27年度上田市スポーツ推進事業の進捗状況について事務局から説明をお願いしたい。	
事務局	平成27年度上田市のスポーツ推進事業の進捗現状について資料により説明	
会長	スポーツ振興計画を皆さんに配布していただきたい。現在の審議会委員は計画作成時のメンバーとかなり変わっているため、各委員には計画の内容をご一読いただきたい。 計画作成に関わった委員から当時の経過等をご説明いただきたい。	
委員	スポーツ振興計画については、事務局が作成した原案を当時の審議会委員等により手を加えながら完成させたものである。 当初提示された案については、競技スポーツというものに特化された偏った内容であったが、「全ての人にスポーツする権利と豊かさを楽しむ」といった生涯スポーツの観点を盛り込む必要があった。競技スポーツに偏ってしまうとどうしても一般市民からスポーツが敬遠されてしまうので、柔らかくアピールできるよう心がけたことを記憶している。 基本はスポーツを「する」「みる」「ささえる」という各項目に沿って、それぞれを構成した。この中でも上田市の実情を明確にしたうえで、イラストや写真を競技スポーツ志向ではないものを使用することを特に心がけ努力した。 情報発信の面でもホームページやSNSを活用しながらうまくアピールしていくことに意義があると考え計画に盛り込んだ。 施設面については、上田市内のスポーツ施設は確かに老朽化しているが、上田市としてスポーツをどのような方向性に持っていきたいのかという部分を意識した。競技スポーツ主体で特定の競技に大きな特徴をもった形にするのか、または幅広い皆さんがスポーツに親しみながら活動していける地域づくりとするのかという部分で、コンセプトを明確にしていく必要があり、当初案よりもかなり柔らかくした経緯がある。	
会長	いま説明していただいたスポーツ振興計画は平成23年3月に策定された。県の振興計画についても、5年後の見直しということで昨年改めて第二次計画された。 上田市でも見直しの時期が差し迫っている中で、いま説明いただいた内容も含め、それぞれの立場から一年間の感想を加えながらご意見等いただきたい。	

委員	<p>総合型地域スポーツクラブに携わっている。総合型地域スポーツクラブでも設立して10年になるクラブもあれば、まだ2・3年というクラブもあるが、どのクラブも個々に少しずつ力を付けてきているように感じる。</p> <p>先ほど事務局からの説明にもあったが、市内の総合型クラブが全体で何かひとつの事を大きく市民に打ち出していこうというプランも少しずつ進み始めている。</p> <p>総合型地域スポーツクラブだけではなかなか大きなことは達成することは難しいが、体育協会や大学関係、中学高校関係等と協力しながら一つのプランをつくり上げていければと思う。</p>
委員	<p>実施プランの中で、「ボランティア活動の推進」という部分でもっと多くの学生を使っていたきたい。また、多くの学生を参加させたいと思う。</p> <p>部活活動では、大会での優勝、勝利を目指して活動している部分が多いが、ボランティア活動により、自分たちが競技者として活躍するための意義や心の成長につながっていくと思う。</p> <p>是非、多くの学校へ声をかけ参加させるという機会を頂きたい。</p>
委員	<p>東信地域の中でも上小地域は非常にスポーツが盛んだと感じている。</p> <p>スポーツ振興計画の10ページに中学校部活動の活動状況が記載されているが、県でも子どもの体力向上ということが一つの大きな柱となっている。私が取り組んでいる事業の中でも部活動の加入率の向上、特に女子生徒の向上が非常に大きな課題となっている。この数字を見ても明らかに課題として反映されていると感じる。実施プランの中では、指導者の派遣等を実施しているとのことで大変嬉しく頼もしく思う。</p> <p>実際に中学校の現場にいた経験上、部活動加入率の低下、子どもが運動部を避けるという現状が子どもの体力低下につながる一つの要因ではないかを感じる。</p> <p>11月20日に東信教育事務所スポーツ指導者連携会議を開催する。</p> <p>1つの目的として中学校期のスポーツ指針が出たことを受け会議を開催するが、上田市からも多くの方に来ていただき、話を深めていきたい。</p> <p>個人的に剣道に携わり大会等へ行くが、近年は部員数の減少が著しい。特に女子の減少が顕著である。先日高校の大会に審判として参加したが東信全体で男子チームが3チーム、女子はほとんど見受けられず愕然とした。皆さんのお力をお借りしながら対策を講じる時期が来ていると感じた。</p>
委員	<p>いまお話いただいたように部活動の加入率はやはり女子の方が低い傾向にある。特にバレーボール・バスケットボールなどチームプレーの競技については年々人数が減少しチーム構成が危ない状況の種目もある。</p> <p>剣道は女子が少なく団体も組めない状況である。柔道は今年から廃部になってしまった（個人で二名別のクラブで活躍している）。このように部によっては大変な状況である。</p> <p>また、部活動を専門的に指導できる先生が非常に少なく、競技的には素人の先生が担当することも少なくない。外部指導者をお願いしている部活動もあるが、外部指導者の方も大勢がいるわけではなく困っている部活動もある。是非、市からの指導者の派遣をお願いしたい。</p> <p>昨年から県の指針により中学校部活動による朝部活と部活動の延長による社会体育活動が原則禁止となり今年二年目となった。</p> <p>朝部活については行わないことが原則であるが、9月から3月までの時期は下校時間が早まる関係上30分程度であるが認めて行っている。</p> <p>県から社会体育活動を部活動と切り離すよう指導があり、社会体育を発足させている部分もあったが、その方針により社会体育の関係は部活動と一緒にして部活を延長する形で6:15頃まで活動しています。</p> <p>施設の関係もあり、一つの部活に対して週に1~2回程度しか実施できない。保護者の負担も大きいですがすべて送り迎えもしていただいている。</p>

委員	<p>ラグビーに関しては日本代表の活躍もあり世間的に注目を浴び、良い流れとなっている。先日、ラグビー協会の理事会において、少年団への加入は非常に多くなっているが、高校へつながるまでの中学生期の活動が非常に脆弱であるという話があった。小学生まで活動をして中学校でスポーツをやめてしまい、高校でまた出直さなければならぬという部分は改善する必要がある。ラグビー以外のどの競技についても同じことが当てはまる。</p> <p>菅平高原としてはラグビー以外でも平昌オリンピックに手の届く位置にいるスノーボードの今井選手（兄妹、丸子出身）スキージャンプ岩淵選手（菅平出身、松本大学）についても引き続き応援して行きながら、2020年の東京オリンピック、パラリンピックにもつなげていきたい希望をもっている。</p> <p>指導者の確保に関して様々な意見が出ているが、トップアスリートだった方々の就職先を確保することでうまく地域に入ってもらい、スポーツを指導しながら仕事をさせていただくということが可能であれば、効率的に確保できる方法としてベストではないかと考えている。</p> <p>菅平高原には宿泊施設での旅館業があるので、そのような施設等に就職していただき、スポーツの指導を中心にいき、時間のあるときに旅館業の仕事をするという勤務形態も可能である。ぜひ推し進めていきたい。その際は皆様にご協力いただく面もあるかと思うがよろしくお願ひしたい。</p>
委員	<p>武石地域の人口は約 3,000 人だが、小学生の人数やスポーツ人口が年々減少している。その理由の一つとして親の送迎があると思われる。子どもにスポーツをしたい気持ちがあっても親が送迎をやらない・出来ないということでスポーツから離れざるを得なくなってしまう。子どもにスポーツをしたい気持ちがあっても、そのことで実現されなくなってしまう、結局スポーツから遠ざかってしまうというケースが非常に多いと思う。</p> <p>ある講演会で、親が行っているスポーツの練習や試合などのスポーツの場に子どもを連れていくことやその声かけをすることが非常に良いことだという話を聞いた。親が行っているスポーツの場へ子どもを連れていくことで、そのスポーツに興味湧き、スポーツに気持ちが近づくことで、小・中学生となった時にスポーツに係わって行けるようになれば良いのではないかと説明されていた。スポーツの場へ子ども連れて行くのは嫌だという親もいるが、できる限り子どもを連れて行き、スポーツに触れさせるということがスポーツを身近にしていくために良いのではないかと。</p> <p>資料の「人材活用と地域力向上プラン」の中に「地域リーダーの育成」、「スポーツをささえる地域づくり」という項目があるが、武石地域のように人口の少ない地域にはやはりこのようなリーダーの育成という部分が重要であると感じている。</p>
委員	<p>大学の教育に係わり 7 年が経ち、当初は強化部であるバレーボール部を強化するというので就任したが、体育の授業を担当する中で現在の大学生のスポーツ事情というのが見えてきた。</p> <p>授業で必ず行ってきたアンケートから、小・中学校まではスポーツをやっている学生が多い。しかし、高校で帰宅部や吹奏部などスポーツから遠ざかる学生が沢山いることが分かった。高校まで進むと部活動の人数も多く、専門性・競技性が高まり気持ち的についていけないことが多いようだ。純粋にスポーツを楽しむという部活動が高校には無く（少なく）、スポーツを諦めてしまった大学生が非常に多いということが分かった。</p> <p>授業では、一度は諦めてしまったがそのスポーツはやはり好きだという大学生が沢山いるので、その学生に対し将来スポーツ活動をどのような形で継続・再開していくかという事のヒントや、楽しかったことを呼び起こすという作業を行っている。</p> <p>目に見える結果は出ていないかもしれないが、たとえば地域には総合型スポーツクラブがあることや、社会に出てもソフトボールをできる環境があることなどスポーツを継続できる場があることも伝えている。</p> <p>学生がスポーツを主としてやらなくなり久しいが、学生をどんどん外へ出し、一度諦めたスポーツ活動をサークルからでも良いので推し進められるよう心がけている。一方で専門に担当しているバレーボール部については、大学での競技スポーツ、強化</p>

	<p>という事で集まる学生が多い。これまでバレーボール一本で生きてきて、勉強やボランティア、家事手伝いなどよりも常にバレーボールを選択してきた学生たちに対して、強化部なので当然勝つことは目指すが、強化・勝利だけを目的にしてしまう大学生活のつまらなさを伝えている。</p> <p>このような意味で、古戦場ハーフマラソンのお手伝いなどもさせていただいている。学生たちにとって、このような活動は初めてだったので、「すごく新鮮で面白かった」、「先生こんな事があった」、「頑張ってるって言われた」、「いろんな人にタオルを渡すだけですごく感動したと言われた」などの感想があり、とても充実した様子で伝えてくれた。彼らに対していろいろなスポーツの見方や方向生があるということ伝えて始め、個人的にも面白くなってきている。</p> <p>強化一本ではなく、学校のスポーツ施設を開放し、世代を超えてバレーボールを小学校・中学校・高校も含めて楽しく行ったりもしている。楽しむことを中心になるので大学からはなかなか勝たないと思われるかもしれないが、それよりも有意義なことなので、勝たなくても責めないでくださいと言っている。</p> <p>自分自身も含め、勝つ事よりもスポーツの見方が徐々変わってくる面白さを今発見しているので、任期が続く限り上田市で頑張っていきたい。</p>
副会長	<p>スポーツ振興計画を作成する時に、子どもたちの体力・運動能力が落ちているということも大きな話題となりました。15年程前に完成した県のスポーツ振興計画を基にしたという経過もあり、子どもたちの体力・運動能力が低いのではなく、その根底は幼児期にあるのではないかと考え、上田市のスポーツ振興計画の中では、幼児の「(あえてスポーツではない)遊び」と記載し体を動かす楽しさの部分からスタートしようということが話題になった。</p> <p>県では今年度から信州型自然保育認定制度というものが制度として立ち上がった。市町村の保育施設、幼稚園、無認可の幼児の施設等も全て含めその制度への承認希望の有無を確認し、県内で約60施設がこの9月頃承認されている。この制度は、長野県の特徴を生かし、豊かな自然がある環境ということで、保育・幼稚園教育を園舎の中で過ごすのではなく、一日の多くを園の外で過ごす活動を進めていきたいと思いますというものである。そのようなことも含め、今日では、子どもたちを守る・教育する大人側の姿勢が、子どもをどんな環境で育てていきたいかという視点を持つかどうかで大きな差が生じるようになってきている。</p> <p>また、人口構造の変化に伴い、人口が少なくなる市町村においては、小学校・中学校期の子どもの人数では、従来あるクラブ活動を全て存続させていくことが不可能となっていく時代がすぐそこに来ている。</p> <p>このような状況下では逆に、剣道や柔道といった個人種目については振興させていくチャンスではないか。その為には待っているのではなく、例えばキャラバン隊みたいにして指導者が移動して歩いたり、市のバスなどで子どもたちを送迎し教室へ行かせたりするなど、今までなかった先進的な取り組みを計画してみてもおもしろいのではないかと考えている。</p> <p>現在、サッカーは盛んであり大学でもサッカー部への入部がとても多くなっている。サッカーの場合、キッズからカテゴリーに合わせた養成をしっかりとしている。大人になるまできちんとプログラム化されており、指導者もそれに合った資格を取らせるようになってきている。キッズの年代では、サッカーをやるのではなく「遊び」をする。とにかく体を動かし、思いっきり動き回る楽しさから入るプログラムがきちんとできている。このような運動嫌いにもならないシステム、カリキュラムがあるということを知ると、他の競技団体ではどうだろうとを感じる部分もある。</p> <p>総合型地域スポーツクラブにおいても、例えば上田市独自のプログラムで子どもたちが運動に親しむための年齢別の(競技指導ではない)指導者養成を行い、年齢に合わせた形で運動・スポーツ指導ができる指導者が連携をとって子どもたちを育てていくということもおもしろいと思う。</p> <p>また、小学校、中学校、高校、社会人とライフステージに応じたスポーツとの係わり方のモデルケースのようなものを広報していくこともおもしろいと思う。</p> <p>大きく様変わりする時代が来ると思うが、約15年前に県のスポーツ振興計画を立て</p>

	<p>た際に、当時会長を務めていた信州大学の平野先生が、学校で育つ日本型のスポーツ、競技スポーツは変わらないだろうと言っていたのを記憶しているが、もう変えないといけない時代が来ているのではないかと感じている。</p> <p>総合型地域スポーツクラブや、地域のスポーツクラブが子どもたちのスポーツを支え、ライフステージごとにスポーツを楽しめる空間ができるようになって良いのではないかと感じている。学校のスポーツはそれに協力していくという今までとは逆の構図が出来上がっても良いのではないかと突拍子もなく感じている。</p>
会長	<p>来年に向けて非常に素晴らしいご意見をいただいた。</p> <p>今の皆さんのご意見をもとに計画を実行しなければいけないということが一番大事なことであると考える。</p> <p>27年度の特徴的な取り組みの一つとして、「太郎山登山競走」が挙げられる。この大会の開催は、スカイランニングという競技の第一線で活躍している孺恋村出身の選手が、上田市の素晴らしい環境を気に入り、日本スカイランニング協会の事務局を上田市に設置したことに起因している。彼は上田から日本、世界へ発信していくという凄まじい情熱をもっている。競技団体やボランティア等と連携し初開催にして素晴らしい大会となった。市や体育協会も含め様々な団体により是非ひとつ大きなことを成功させようということで今年一番大きな試みであったと感じる。</p> <p>東信教育事務所主催の指導者連携会議に昨年出席したが、素晴らしい会議だと感じた。この会議は東信全域を対象としているが、上田市内を対象に同じようなことが出来ないか。上田市内の関係者がすべて集まった中で、先生や市、体協、総合型も含め連携をしながら中学の部活を上田で定着させていきたいというのがある。事務局と話を進めていくことで、来年度のひとつの大事な要素となり得るのではないかと感じている。</p> <p>皆さんのお話から、高校以前の小さい時期からの位置づけが重要となっているということで、心のプロジェクト「夢の教室」なども実施し、小学校に介入していると思うが、実際にはそれほど運動が好きなお子が増えているという印象は感じられない。来年度は具体的に実行をするという年なのでよろしくお願ひしたい。</p> <p>続いて、次の議題である「上田市のスポーツ施設について」事務局から説明していただきたい。</p>
事務局	上田市のスポーツ施設について資料により説明
会長	<p>時間の都合もあるので、説明にあったとおりご意見やお気づきのことなど忌憚なくアンケートへご記入いただき期限までの提出をお願いしたい。</p> <p>皆さんのご意見をいただくということが一番の趣旨となっている、体育協会からも要望を出す予定となっている。</p> <p>ラグビーW杯、東京五輪のキャンプ誘致、長野国体と色々あるがそれぞれご対応いただきたい。</p>
事務局	例年、3月に開催していたが、大変忙しい時期のため日程調整のうえ次回開催時期を連絡させていただく。

* 会議概要は原則として公開します。会議終了後、1週間以内に行政改革推進室へ提出してください。

* 非公開及び一部非公開としたものについては、その理由を記載してください。